

アメリカ合衆国の未臨界核実験実施に対する抗議決議

アメリカ合衆国が、5月25日正午（日本時間26日午前4時）に西部ネバダ州の地下核実験場で実施した未臨界核実験は、平和と核兵器廃絶を願うすべての国家、自治体、市民の意思に真っ向から挑戦する行為であり、極めて遺憾である。

ヒロシマ、ナガサキの惨禍から半世紀以上を経過した今もなお、多数の被爆者がその後遺症に苦しんでいる現実を直視し、人類の未来が破滅の方向に向かうことのないよう、核兵器を廃絶し、恒久平和を早急に実現することが、我々に課せられた責務である。

原爆開発で知られるロスアラモス国立研究所が計画した、「アーモンド」と名づけられた今回の実験について、米国エネルギー省・国家核安全保障局は、「備蓄核兵器の安全性と信頼性を保つための科学・技術的なデータを集める」と説明している。

97年以来、通算21回目となる今回の未臨界核実験をアメリカ合衆国が実施したことに対し、非核都市宣言をしている三鷹市議会は、国際社会を深く失望させた未臨界核実験の実施に強く抗議するとともに、今後一切の核実験を停止し、21世紀を核兵器のない平和な世紀とするため努力することを強く要請するものである。

上記、決議する。

平成16年 6月 3日

三 鷹 市 議 会